



林市長(左)に計画を説明する  
屋敷会長(中央)と根山委員長

# 住民が地区防災計画

## 市内初策定 全世帯に冊子配布へ

**氷見**

氷見市仏生寺地域づくり協議会(屋敷宗一会長)は21日、住民が自主的に策定した地区防災計画を市に提出した。東日本大震災の教訓から、国が2014年に設けた仕組みに基づくもので、氷見市内で初の取り組み。

地区防災計画は、大きな災害に備え、地元の実情に応じた準備や発生後の行動方針を定めるもの。改正災害対策基本法に基づき、住民団体が作成して自治体に提案する。仏生寺地区は約300世帯

千人が暮らす。県の土砂災害警戒区域に指定されており、13年に協議会を設立し、訓練を毎年行うなど積極的に防災活動に取り組んできた。

今回の計画ではこれまでの活動を踏まえ、避難所の場所や運営方式、情報伝達の流れなどをまとめた。避難所の間取り図もある。冊子にして防災会の役員に配り、抜粋を掲載した「防災・生活便利帳」を全世帯に配布する。屋敷会長と同地区の根山仁志自治振興委員長が市役所を

# 異業種連携 こつ学ぶ

## 県西部企業参加しセミナー



**高岡** 異業種交流促進セミナーが21日、高岡市のウィング・ウィング高岡で開かれ、県西部6市の企業関係

人が参加した。

異業種連携について語る山村社長(右)……  
者らが異業種連携を成功させるポイントを学んだ。  
6市でつくる連携中枢都市圏「とやま呉西圏」がビジネス

訪れ、林正之市長に内容を説明した。市は今後改定する地区防災計画に反映させる。林市長は「モデルとして取り組

みを市内に広げたい」、屋敷会長は「訓練の参加者を増やすなど今後も活動を継続していく」と話した。